

フォーラム・セミナー報告

関西大学第2回FDフォーラムを開催しました。

『思考し表現する学生を育てる—書くことをどう指導し、評価するか?—』をテーマに昨年12月12日、第2学舎 C507教室において第2回FDフォーラム（ワークショップを含む）を開催しました。今回は、関西地区FD連絡協議会と共催し、学内外の大学教員50名以上の参加がありました。大学の種別や規模、学問分野の違いを超え活発な議論が行われ、本テーマへの関心の深さがうかがわれました。また、小講演や事例発表では先進的な取組や教育実践についての発表がありました。

フォーラム開催趣旨

「思考し表現する学生を育てる」ことは、今日の大学教育において、いっそうの重要性をおびつつあります。ところが教員は、思考や表現に関する指導や評価について、いまだ経験則以上のものをあまり持ちえていないのが現状です。



開会の挨拶：
市原靖久 副学長

この問題について本学が幹事校として加盟する関西地区FD連絡協議会（FD連携企画WG）で昨年度シンポジウムを開催したところ、「もう少し議論を深めたい」、「時間をもっとゆったりとってほしい」との意見が多数ありました。そこで今年度は関西大学と関西地区FD連絡協議会の共催により同じテーマでワーク

ショップを開催することにしました。当日は小講演や事例紹介のほか、参加者同士で各大学・授業における課題を議論するグループワークもおこなわれました。



事例紹介：三浦真琴 教授（教育推進部）

ワークショップ参加者報告

学生の思考力と表現力を育てるためには

総合情報学部 准教授 牧野由香里

私たち大学教員には、授業づくりについてじっくり語り合う機会はほとんどありません。このワークショップでは「学生の思考力・表現力を育てたい」という願いを共有する大勢の参加者が学内外から集まりました。

前半のプログラムでは文章表現教育



受講生からの発表
尾崎 史歩
(政策創造学部1年生)

の独創的な実践事例が紹介され、後半は分科会にわかれてグループごとに日頃の悩みや工夫を報告し合いました。グループの

成果を分科会で深め、それをふまえて全体で議論することにより、授業づくりの課題が見えてきました。

印象的だったのは、参加者が協同的に描いた「思考と表現」の階層構造です。一番下の「人間関係（継続的なかわり）」という土台に「学習意欲（感情）」や「問題意識（発問）」の層が重なります。

その上に「論理的思考（データ分析）」の層が続くのですが、参加者の多くがここでつまづいているようでした。さらに、これらをいかに専門科目と接続するのか？という問いが加えられました。

「思考と表現」の教

育は、これらの階層を丹念に積み上げていくことで実現しますが、授業づくりにこれだけ複雑な構造が求められるとしたら、教員一人の努力だけでは限界があるのではないのでしょうか。私たち大学教員が自身の「授業力」を高め合うための専門的な教育開発支援が必要になる、と痛感しました。



ワークショップでの議論